
Loulé

について

ロウレー

この町の基礎が築かれた時期は不明ですが、おそらくその起源はるか昔にさかのぼるものと思われます。しかし、ヴィラモウラ（Vilamoura）のセレ・ダ・ヴィラ（Cerro da Vila）の漁業や魚の塩漬センターの例のように、ローマ人がこの地を占領した明確な痕跡が残っており、715年にムーア人がロウレーに到来したときには、すでに重要な町であったこともわかっています。

ロウレー（Loulé）はアフォンソ3世（D. Afonso III）治世下の1249年にレコンキスタによってキリスト教徒の手に戻り、1266年に憲章が与えられました。中世から残っているものは城（castelo）で、家々に囲まれたその塔と城壁の一部は今も見ることができます。1291年、ディニス王（D. Dinis）はロウレーに市場を開き、この地方の主要な取引の中心地としました。

ロウレーは内陸の町であるため、海岸沿いの他の町ほど大航海時代がもたらした富の恩恵を直接受けることはありませんでしたが、それでも町の家々やサン・クレメンテ教会（Igreja de São Clemente）、ミゼリコルディア教会（Igreja da Misericórdia）といった建物のマヌエル様式の装飾の特徴を数多く見つけることができます。この地域の経済は、特にドライ・フルーツ商品（アーモンドやいちじく）などの農業活動や何世紀もにわたって生産し続けている手工芸品を中心に発展しました。ロウレーは1988年に市に昇格しました。

現在、ロウレーはポルトガル最大の地方自治体の経済的な中心地で、海岸沿いの町は観光業を、内陸部は貿易や農業を主力産業としています。郊外には、海岸のヴィラモウラやクワルテイラ（Quarteira）、内陸部のサリール（Salir）やアルテ（Alte）といったアルガルヴェ（Algarve）地方で最も有名な観光スポットがいくつかあります。

自然愛好家は、市のすぐ近くにあるベネモラおよびロシャ・ダ・ペーナ保護区（Sítios Classificados de Benémola e da Rocha da Pena）にうれしい驚きを感じるでしょう。ここは自然植物が豊かに生育し、アルガルヴェ地方のさまざまな面を保存するのに役立っています。ここではパッケージされたウォーキング・ツアーを楽しむことができます。

ロウレーのカーニバルはポルトガルで最も有名なものの1つです。